

屋久島異文化交流セミナー&ホームステイプログラム 2013 実施報告書

鹿児島大学留学生センター
大嶋 眞紀
市島 佑起子

本報告は、平成25年8月27日・28日に実施した「屋久島異文化交流セミナー」及び8月28日から8月30日(当初の予定は31日)までの「屋久島ホームステイプログラム」の実施状況に関するものである。セミナー実施は、平成24年3月及び8月に実施したセミナーのあとを受けて、準備された3回目の企画であり、学長裁量経費を認められた。7月には、屋久島環境文化財団の訪問を受け、準備のための意見交換を行った。7月には学生募集を行い、8月上旬に抽選会を行った。参加希望者が募集人数を大きく上回ったため、抽選となった。結果的には、セミナー参加者計30名(うちホームステイ参加者10名)が確定した。8月20日には事前の説明会を実施した。本報告書の執筆は「異文化交流セミナー」の部分と「まとめ」を大嶋、「ホームステイプログラム」の部分由市島が担当している。

1. 異文化交流セミナーについて

1.A 実施状況

異文化交流セミナーは、今回もポスターセッション形式とした。例年、郡元キャンパスで実施しているポスターセッションが盛況であり、県内他地域での開催を望む声なども届いていたため、10名の留学生が、それぞれ制作したポスターに基づき、口頭発表を行い、来訪者が自由に質疑応答をする形式とした。しかしながら、郡元キャンパスでのポスターセッションとは異なり、屋久島では夜間の開催であり、また来訪者が限られているため、盛会となるかどうか不安はあった。

出発当日は、留学生30名プラス日本人学生チューター2名が全員、集合時間にも遅れず、種子島・屋久島フェリー乗り場に向かった。10時20分発の高速船に全員元気いっぱい乗り込んだ。13時安房港に到着。バスに乗り、研修センターを經由し、大川(おおこ)の滝に向かった。雄大な景色を堪能。帰途、ガジュマルの樹を見学し、夕方5時、屋久島環境文化研修センターに到着。館内オリエンテーションを受けた。そして6時から、夕食と異文化交流セミナーを開始した。主催者と環境文化村館長の挨拶、環境文化村事務局長の乾杯の音頭から始まった。

異文化交流セミナーには、ニュージーランド派遣中学生、中高校生数名、研修センターボランティア、ホームステイ受け入れ家庭の方々など30名以上が参加し、留学生30名との交流を行った。ポスターセッションを行わない留学生なども各ポスターのプレゼンテーションを聞いてまわった。それぞれが自由にポスターを見学し、発表を聞いて、質疑応答をするという形式がどのように作用するか気がかりであったが、会場は熱気に溢れ、期待以上の盛り上がりを見せた。どのコーナーも熱心に聴講するものや、会話が弾むものなど、大変な賑わいで、真の意味での異文化コミュニケーションがとれたのではないかと思われる。

発表者のうち数名は初級レベルの日本語能力しかなかったため、十分に対応できないのではないかと心配したが、8月上旬に郡元キャンパスで1回ポスターセッションを体験していたためか、全員笑顔を絶やさず、のびのびと発表を行っていた。発表を行わない留学生も総じて全員が協力的であり、また地元の子供たちが発表を行わない留学生とも活発に交流している様子も見られ、なかなか有意義な交流が行われていると思えた。また今回は屋久島を紹介するポスターもあり、屋久島固有の手作りのお菓子も大変好評であった。

ポスターセッションの発表者の出身国は、トンガ、ラトビア、ドイツ、韓国2名、フランス、フィリピン、中国、ペルー、オーストラリアであった。

8時にはセッションを終了し、研修センターの永岡さんの司会で、留学生2名、中学生、ボランティア代表の感想を聞き、環境文化研修センター課長の閉会の挨拶、そして8時半ごろには全員がお別れをして終了した。

翌日は朝食ののち、8時半研修センターを出発し、屋久杉ランドに到着。約2時間弱の散策を楽しんだ。研修センターの担当者がグループごとに屋久杉の自然、環境、植生などについて丁寧に解説をしてくれたため、留学生にとっては、日本語聴解という意味でも有意義な体験となった。そして12時半に屋久杉の食器による昼食を堪能、おみやげを買い、屋久島環境文化村の施設見学、大型スクリーンによる屋久島の映像を見て、3時に宮之浦港でホームステイ組と別れ、4時20分の高速船で帰途についた。台風もまだ遠方にあり、船旅は快適であった。

しかしながら、台風15号が接近しつつあるということで、教職員は13時から対応を協議し、残留するホームステイ組の計画をホームステイ2泊から1泊に変更し、31日に帰鹿の予定を30日に早めた。

1.B 1泊2日研修のアンケート結果について（対象20名）

		とてもよい	まあよい	あまり よくない	よくない	無回答
1	募集方法	14名	5名			1名
2	事前説明	14名	6名			
3	1日目島内巡り	9名	11名			*
4	1日目異文化交流セミナー	17名	1名	2名		
5	2日目屋久杉ランド	16名	4名			
6	食事	14名	5名	1名		**
7	船やバスの移動	16名	4名			
8	フリータイム	14名	6名			

* 予定されていたもう一つの滝も見たかった。縄文杉も見たかった。

** 船の食事はあまりよくなかったけれど、研修センターでのディナーはよかった。郷土料理も体験できた。

その他の自由コメント：（ ）内は回答者数

[思い出] もうすぐ帰国する友人と過ごせたこと。新しい人々との出会い（2）。屋久島の人々との交流（3）。星を見に外出したこと。自然とのふれあい。ポスターセッション（5）。屋久杉ランド（6）。屋久島の人々は情熱的。とてもリラックスできた。

[新たに知ったこと] いろいろな植物の名前。各国の文化。屋久島の樹木、植生、気候、動物（4）。川や滝がきれい。森（2）。自然保護（4）。

[改善点] 地元の人々といっしょに旅行したい。時間がもうちょっと長いほうがいい（6）。スクリーン映像は不要。帰りの便を自由にできないか。ホームステイの性別による選出はおかしい。ホームステイのキャンセルが出たら補充を。バスの時間が長い、もっと近い所を歩きたい。おみやげの時間が長かった。もっと行事があってもいい（3）。もっとまわりたい（2）。ホームステイの人数を増やして。沿岸の観光。屋久杉ランドの時間を長く。ビーチにも行きたかった。

[その他] 日本人はみんなやさしい。世界遺産を見せてくれてありがとう（2）。教員、職員、チューター、財団の方々、地元の人、みんなに感謝。食事はとてもおいしかった。スタッフもフレンドリーだった。

*アンケート結果について

4段階評価の部分については、異文化交流セミナーをあまりよくないと評価した者が1名いたが、なぜよくないかという点の指摘はなかった。今回は船による移動について否定的コメントはなかった。自由コメントでは、地元の人々と交流できたことを思い出としてあげているものが目立った。新たに知ったことの中にも自然と共生する地元の人々についての指摘があった。

改善点としては、もっと滞在を長くという声が前回同様目立った。ポスターセッションは総じて好評だった。前は中国のポスターがなかったという点が、中国人留学生の不満だったが、今回は発表者がいたため、そのような不満はなかった。また中国人の参加者の中にはポスターこそ作成しなかったものの、パソコンで出身地の画面を制作してきた学生がいて、その画面の周囲は大勢の見学者がとり囲むほどの人気であった。

抽選方法については慎重を期したため、とくに異論はなかった。ホームステイの男女比について若干コメントがあったほか、キャンセルが出た場合の補充などについても意見があった。しかしながら、今回のキャンセルは台風による現地でのキャンセルであったため、その場での補充は無理があった。全体としては、環境文化財団の担当者の様々な心遣いを留学生は高く評価していたことがうかがわれる。(文責：大嶋)

2 ホームステイプログラムについて

2.A 実施状況

8月28日午後異文化交流セミナーのみ参加の留学生達と別れ、残る10名によるホームステイプログラムがスタートした。15:00に屋久島環境文化村センター(以下、文化村とする)を出発し、バスで、一湊地区にある馬場水産へ向かった。馬場水産では、工場の担当者2名が日本語・英語でサバ節作りの流れを中心にご説明下さった。特に印象に残ったのは、集落中にサバ節独特のにおいが漂っており、環境省による「かおり風景100選」に選ばれている事、ただサバ節を製造するだけでなく、製造工程で出る全ての物を有効活用し、環境に優しいモノ作りを目指しているという点である。説明自体は留学生達にとって少々難しい日本語であったと思われるが、実物を見たり触ったり、時にはジェスチャーを加えて下さった事により理解がしやすくなったのか、水産学部の留学生を中心に、熱心に話を聞く様子が伺えた。馬場水産で50分ほど見学をした後は、屋久島環境文化研修センター(以下、研修センターとする)へ向かった。到着後はホームステイプログラムのオリエンテーションがあり、説明は、財団

スタッフの菊池さん・永岡さんが中心となり進めて下さった。この頃になると、財団スタッフとも大分慣れてきたこともあってか、全体的になごやかな雰囲気、オリエンテーション自体も短時間で終了する事ができた。また、この日は、県内小学生の団体と一緒に宿泊の予定であったため、オリエンテーションの後すぐに入浴、夕食をとった。夕食前に、隣で食事中だった小学生に自己紹介をして、簡単な交流をした。小学生たちは留学生に興味津々の様で、研修センターで一緒の間、挨拶程度はやりとりする様になった。就寝時間までは全員でさやかながら交流会を行い、明日への英気を養ったようだ。

8月29日は、朝食をとった後、朝9時に研修センターを出発し、バスで30分ほどの所にある「屋久島遊々の森」での植樹活動を行った。研修センタースタッフに加え、林野庁の方がお手伝い下さり、苗木の準備や植樹場所の選定等、全て準備済みであった。山道を登る前に、林野庁の代表者からご挨拶を頂き、その後、学生達は歩いて現地を目指した。現地到着後はホームステイをする2人が1組となり、1組2本の木を植えた。植樹自体は難しい物ではなかったが、鹿除けのネットを張ったり、植樹記念の棒を打ち付けたりしている内に1時間以上が経過。その後、植樹場所の近くでお弁当を頂き、下山した後に改めて集合、ご挨拶を頂き、解散となった。植樹活動は、普段は一般の方は入る事ができない場所で行われた事もあり、海まで一望できるきれいな景色を見たり、屋久杉伐採の歴史について教えて頂いたり、単に木を植えて思い出を残すというだけでなく、特別な学びの場を提供して頂いたと感じている。

その後、研修センターへ戻り、荷物を整えながら休憩をとった。14:30頃、屋久島南部にある平内地区の生活館へとバスで移動し、15時からホームステイ受け入れ家族との対面式が行われた。今回は、8名が5家庭に分かれて受け入れて頂いた（2名は台風による延泊不可のため、安全策として29日に鹿児島へ戻った）。日本語力（上級と初級）や互いに面識があるかなどのバランスを取りながらペアを決め、最終的に男子ペア2組（内1組は1人）、女子ペア3組（内1組は1人）に分かれた。対面式では、平内区長（西橋様）やホストファミリー代表（松本様）、研修センター事業課長（寺田様）からご挨拶を頂き、その後は、留学生の自己紹介と受入家庭の紹介があった。受け入れ側も留学生側もまだ緊張の色が見え隠れする中、各家庭へと移動し、それぞれの夜を過ごすこととなった。対面式終了後、引率教員1名と留学生2名は、宮之浦港へ移動し、17:10の高速船で鹿児島へと戻った。

8月30日は船の出る時間に合わせて、12:30に安房港へ集合する予定に変更された為、午前中は各家庭でのフリータイムとなった。それぞれに屋久島内の名所を訪れ、昼食をとった後、安房港へ集合、閉会式が行われた。帰りは台風

が近づいていたが、大きく天候が乱れる事もなく無事鹿児島港へ到着。チャーターしたジャンボタクシーで国際交流会館まで移動し、現地解散となった。

前回同様、初めて日本人家庭に泊まる学生が多く、ホームステイが始まる前は少し不安な様子も見られたが、屋久島の方々の心温まるもてなしに感激したようで、皆が屋久島の写真を整理したり、思い出話をしている姿が印象に残った。また、あいにく台風によって1泊短いホームステイ事業となったが、財団スタッフ皆様のお蔭で、無事にプログラムを実行・終了することができたと感じている。今回も、参加者皆がそれぞれの立場、思いを持ちながらも、共に考え、学び、思いやり、楽しむことができたという意味で、世界遺産の島・屋久島に見守られた、温かい国際交流の場になったのではないかと考えている。この場を借りて、関係者の皆様に感謝申し上げたい。ありがとうございました。

2.B 3泊4日研修のアンケート結果について（対象8名）

（注）自由回答についてはできる限り原文に近い形で日本語の間違いを修正しました。

【セミナーに関して】

		とてもよい	まあよい	あまり よくない	よくない	無回答
1	募集方法	5名	3名			
2	事前説明	6名	2名			
3	1日目島内巡り	3名	5名			
4	1日目異文化交流セミナー	5名	3名			
5	2日目屋久杉ランド	4名	4名			
6	食事	4名	4名			
7	船やバスの移動	4名	4名			
8	フリータイム	4名	4名			

設問1～8の自由コメント

- ・楽しかったです。
- ・屋久島環境文化センターでの食事はおいしかったです。
おみやげの店の上で食べたごはんは…まあまあ…でした。
- ・トレッキング（注：屋久杉ランドか？）の時間はもうちょっと長くすればいいと思います。
- ・「島内めぐり」はよかったです、車にいる時間がちょっと長かったような気がします。事前に「行きたい所」を投票させて頂ければ、行き先の参考

になると思います。

*アンケート結果について(セミナー)

セミナーに関する内容は「とてもよい」「まあよい」が大半を占め、おおむね満足できたと捉えることができそうだ。学生達は、屋久島行きの目的として、やはり世界自然遺産、つまり、大自然に触れ合えるというイメージを持って参加しているようだった。そのせいか、もっと山や海、川などの自然に触れ合いたかったという意見があったが、日程の短さを考えると、これを改善することは容易ではない。自由旅行では無いことや、スケジュールについても事前にしっかり説明する事で対応して行きたい。また、このある種の物足りなさが、再度屋久島を訪れるきっかけになる様、働きかけられればと考えている。

【ホームステイに関して】

		とてもよい (とてもできた)	まあよい (まあできた)	あまり よくない (あまりできない)	よくない (できない)	無回答
9	日本語コミュニケーション	3名	5名			
10	ホームステイ活動楽しんだ	8名				
11	ホームステイ食事	8名				
13	ホームステイ環境	7名	1名			
14	家族と親しくなれたか	7名	1名			

[12]ホームステイでの食事はどんなものをごちそうになりましたか？

意見も書いてください。(意見部分のみ掲載)

- ・何を食べたかは大事ではなく、屋久島に住んでいる地元の人たちとお話しできてよかったと思います。皆は親切で、長期的につながれると思います。
- ・いつも一人暮らしだったので、味わう事のできない家族との食事ができてうれしかったです。
- ・一日目も二日目も食べきれないほど用意して頂き、とても楽しかった。
- ・ほんとうにうれしかったです。
- ・食事すごくおいしかったです！
- ・本当に本当においしかった。
- ・おいしかった。

[15]ホームステイで一番思い出に残ったことは何ですか？

- ・全て思い出に残りましたが、一つ選ぶなら、夕方に川に行って泳いだこと

です。そこは川と海がつながっている所で、前を見たら山、後ろを見たら海が見えるすてきな場所でした。

- ・夜に、お父さんと一緒にお酒を飲んだり、たくさん話をしました。また、屋久島温泉に連れて行ってもらいました。気持ちがよく景色も最高でした。ホームステイに参加させて下さりありがとうございました。
- ・ホストファミリーの母さん父さんと一緒に海に行って、子ガメを見て、星がものすごくきれいでした。
- ・Mさんの家族にあいました。そしてみんな友達になりました。おもしろくてきれいな所へ行きました。
- ・食事でした。料理の準備を手伝ったりしておもしろかったし、いろいろたくさん日本っぽい料理を食べることができてよかったです。
- ・夕方、お母さんとお父さんと一緒に部屋の外で美味しいご飯を食べました。お母さんの手作り料理を食べたり、おしゃべりしたりしました。
- ・ホストファミリーは地元の農家さんです。農業は私の専門と関係があるので、気があいました。農家さんがどれくらい苦労してきたのか、私が留学生として今までどれくらい困難があったのか、お酒を飲みながらじっくり話しました。◎◎歳の農家さんと「国」の境界を超えて、「人間」としてつながりができて、ものすごく楽しかったです。
- ・家族と遊んだことです。

[16] ホームステイ中に困ったことはありませんでしたか？

⇒困ったことはなかった（7名） 困ったことがあった（1名）

- ・ホームステイのファミリーと交流する時、何を話したらいいかわかりませんでした。話題を探すのが難しかったです。日本語も下手だし、自分の気持ちをちゃんと伝えるのが難しかったです。

[17] ホームステイ全体について意見や感想を書いてください。

- ・短かったです、台風が来たから仕方なかったです。
- ・時間がもうちょっと長かったらよかったです。
- ・楽しかったけどちょっと時間がなかった。でも、私はいい経験ができたと思います。
- ・今回のホームステイは1日でしたが、たくさんの忘れられない思い出ができました。とても楽しくて、すごくラッキーだったと思います。
- ・日本のたたみとか、屋久杉で作ったアクセサリー、そして家庭料理からお店の「鶏飯」まで、ぜんぶ初めての経験だったんです。短い時間でした

- けど、ホームステイに参加することができてすごくよかったなと思います。
- ・とてもよかったと思います。すばらしい自然の風景も見たし、地元の人といろいろ話ができ、留学生同士もいっぱい交流できました。時間が短いので、ホームステイはちょっと残念でした。ホームステイというより民泊した感じでした。予想と違いました。
 - ・ホームステイのお父さんとお母さんはとても親切でした。今回はお母さんの体調が急に悪くなって、とても邪魔になったと思いましたが、お父さんは親身になって食事を用意してくれました。とても感動しました。家の犬もなかまになって楽しかった。またもう一度、お父さんとお母さんといつか会いたいです。
 - ・まず、初めてのホームステイだったのですごくわくわくしました。今回、◎◎と一緒にグループになって楽しかったです。◎◎はまだ日本語がちょっと足りないので、私がサポートしようと頑張りましたが、役に立ったかどうかわかりません。台風の影響でホームステイが一日に短くなって寂しくなりましたが、また会おうと思います。短い時間でしたが、ありがとうございました。

[18] 今回の研修旅行で一番思い出に残った事は何ですか？

- ・ホームステイも楽しかったが、屋久島に着いてからずっと一緒だった屋久島環境文化センターの皆さん、ありがとうございました。
- ・センターの皆さんはいつも親身になって、色々、ご指導と協力をして下さいました。本当に感謝します。
- ・研修センターのスタッフたちのいい笑顔。
- ・夜の空は生まれてから見た中で一番きれいでした。すばらしい景色に感動しました。
- ・地元の人たちのいつもの笑顔と別れの涙。
- ・みんなと山で散歩しました。
- ・みんなと遊んだことです。いつもはあまりチャンスがありません。

[19] 今回の研修旅行で、新たに知ったこと、感じた事は何ですか？

- ・屋久島は本当にきれいだと思うけど、旅行の風景より、旅行中に会った人と一緒に作った思い出こそ一番大切だ。
- ・色々な国の事を知りました。自分の国のことについて、あまり知らないことに気づきました。
- ・私は美しい場所をたくさん見つけました。平和を感じました。

- ・自然を守ることは大切なことだと思います。早いスピードで工業を発展させなくても、農業・林業・観光業に頼っていい町づくりができます。自分の国のことを思い出しました。もう一度考えました。
- ・我々が生活している地球を、そしてこの地球の自然を守らなければならない。
- ・私は今、奄美の観光と地域振興について研究しています。特に、エコツーリズムに興味があり、屋久島は私の研究につながる大事な所です。23日までずっと奄美で調査して、次に屋久島を訪ねることができて、すごく役に立ちました。屋久島の全てを見る事はできなかったが、ある程度比較できました。

[20]研修旅行への要望や改善点があったら書いてください。

- ・植樹活動は実際にやったことは少なかったです。写真を撮る事、記念の物を作る事より、もっと何かできたならよかったです。また、遊び以外の屋久島の情報をもっと知りたいです。もっと印象に残るような事を体験したかったです。
- ・学生達も参加費をちょっと出して、食事等をもっと豪華にしてもいいと思いました。
- ・なし！
- ・楽しかったです。
- ・無し！最高だったと思う。
- ・みんなはやさしかったです。

[21]何か付け加えたいことがあったら自由に書いてください。

- ・ともこさん、いつも明るくて元気で留学生たちに案内しながら配慮してくれた事に非常に感心しました。
- ・ホームステイの時は、雰囲気はちょっと微妙でした。交流するというより、目標を達成する感じが強かったです。留学生同士の交流は楽しかったです。先生方とも話ができうれしかったです。ふだんは交流する機会が少なく、あいさつだけです。今回はいい思い出になりました！
- ・また色々、今回の研修旅行のようなイベントを企画してほしい。もっと日本の方と話をしたい、そして友達になりたい。

***アンケート結果について(ホームステイ)**

ホームステイに関しては、不満や改善の意見よりも、感謝の言葉が目立った。初めて会う相手の家に泊まるということは、緊張の連続だったに違いないが、

屋久島の皆様への感激・感謝の気持ちがつづられたこの回答こそが、学生達の満足した気持ちを表しているように思う。特に、人(ホストファミリー、スタッフ、参加留学生)に対する肯定的な意見が多かった事から、この旅行中に充実した交流が行われた事が伺える。さらに、自分の専門や出身国の環境問題に対する意見があり、交流のみならず、学びの場としても非常に重要な意味を持つ研修プログラムであったと言える。前回、指摘があった細かな点については、事前に財団・大学双方で話し合いを行い、できるだけの改善を行った。その成果も、少しずつではあるが反映されていると考えて良いだろう。

(文責：市島)

2.C ホームステイ受け入れ家庭のアンケート結果について (対象: 5家庭)

ホームステイの受け入れをしてくださった5家庭の方々を対象に、アンケート調査を行った。各家庭への依頼・回収共に財団スタッフにお任せをした。いずれも記名式でお願いし、最後のページには、十分コミュニケーションができなかった場合を想定し、学生達へのメッセージを頂戴した。(このメッセージの部分のみ、学生本人が観覧できるようにした。)以下、特に全体の運営に関わる項目・意見を中心に集計結果を載せる。

※()内は実数

[3]今回、留学生を受け入れられたきっかけは何ですか? (複数可)

ホームステイに興味があったから(3)、留学生に興味があったから(2)、知合いに頼まれたから(2)、外国に興味があったから(1)、その他(1)↓

・去年も受け入れており、思い出作りができる。

[4]留学生を受け入れるために、どのような事前準備をされましたか? (複数可)

案内する観光地などの選定(5)、屋久島・日本らしい食べ物の準備(4)、外国人の口に合わせた食べ物の準備(3)、宿泊用の部屋などの確保(3) 手土産や記念品の準備(2)、英語など外国語の準備(1)、知人や近所の方への声掛け(1)

その他(1)↓

・我が家に来られる前の食事内容のチェック

(朝夜のメニューが日本の定番だったので、肉料理と、若いのでボリュームのある内容の品を考えました。)

[5] 留学生受け入れに際して、関係機関からの説明は十分でしたか？

とてもよかった	まあよかった	あまりよくない	よくない	NR(無回答)
2	2	-	-	1

※事前説明について、改善点やご意見がありましたらお書きください。
(回答なし)

[6] ※留学生と日本語でコミュニケーションする際に、苦勞された事や
伝わらなかった事がありましたら、お書きください。

- ・特に苦勞はありませんでしたが、Gさんが一生懸命に伝えようとしている姿がほほえましかったです。
- ・二人とも日本語が上手でよく会話ができましたが、時々、わからない(伝わらない)言葉があると「何ですか」と聞いてくれたので、わかりやすいように言い直すこともあり、その後、理解してくれたように思います。

[7] ※今後、指導や気づきが必要だと思う留学生の行動や発言がありましたら
お書きください。

(回答なし)

[8] ホームステイ中に困ったことやトラブルはありませんでしたか？

特に問題はなかった	困ったことやトラブルがあった	NR(無回答)
3	1(↓)	1

- ・家内が受入当日に体調をくずし、予定していた料理が作れなかった。
留学生には気の毒でした。

[9] 留学生を受け入れて感じたカルチャーショックや気づきがあればお書き
ください

- ・中国のSさんより、中国ではあまり野菜サラダは食べないということを教えてもらいました(生野菜)。本人も積極的に(きれいに完食)は食べていませんでした。他の物は残さず美味しいと言って食べてくれたので嬉しかったです。
- ・大した事ではないですが、男の人には香水の臭いが少しきつかった様です。直後に来客があったら、部屋が…といった感じで。でも、仕方ない事なので大丈夫です。

- ・中国の若者が、日本および中国の両方の立場と考え方をしっかり理解していたのには驚かされました。二人とも日本人以上に礼儀正しいのにはびっくりでした。

[10] 今回のホームステイに関して、ご意見やご感想を自由にお書きください。

- ・中国人と韓国人ということで反日教育を受け、反日感情とか難しい事もあるかなとやや不安を持ちながら留学生を待っていましたが、前日のポスターセッションの際、主人が二人に会い、笑顔が素敵な人だったよと聞いて、楽しみに迎えました。予想通り、二人とも挨拶もよく、笑顔でいてくれました。部屋に入ったとたん、畳の部屋に感激し、料理もおいしいと言って、食べてくれた事は本当にありがたく幸せでした。食事の準備も後片付けも「お母さん、手伝いましょうか」といってくれて、とても心配り、気配りのできる人たちだと感心しました。一泊でしたが、亀が砂から出て海に帰るまでを見ることができたり、木工制作をしたり、中身の濃い充実した日々でした。こちらが幸せな気持ちになり、感謝しております。ありがとうございました。
- ・台風の影響で日程が一日短くなってしまったのは残念でした。私共ではやはり家内が体調不良でダウンしてしまったのが一番残念でした。もっと二人と話をしたかった。

[11] ホームステイ行事が再度行われた場合、また参加したいと思いますか？

ぜひ参加したい	参加してもいい	あまり参加したくない	参加したくない	NR (無回答)
3	-	-	-	2

***アンケート結果について(受け入れ家庭)**

昨年度から継続して受入をしてくださったご家庭が5件中3件、新規が2件であった。継続・新規双方のご家庭から様々なご意見を頂戴し、本プログラムを肯定的に捉えて下さっている様子を伺う事ができた。全体を通して、不満や要望よりも、感想・反省が多く見られた。外国人留学生を宿泊させるという事自体、非日常的であり、言葉の問題を始め様々な準備・ご負担があったと予想される。アンケート結果を見ると、ホームステイ中の案内先の選定や屋久島らしい食事へ多くのご配慮をして下さった様である。前回ご指摘頂いた、留学生のプロフィールや要望等の情報は、事前に留学生センターから環境文化財団の方へお伝えし、各家庭にご連絡頂いた為か、特に新たな意見は見られなかった。これは、単なる情報共有のみならず、集落に足を運んで打合せをして下さった財団側の準備によるところが大きい。また、今回、ホームステイの前に行われ

たポスターセッションに、ホストファミリーが参加して下さった事も影響した様である。ホームステイ開始前に顔を合わせておくことで、お互いに心づもりをする良い機会になったのではないだろうか。留学生側も、お土産や話題の準備等、出発前にしっかり心構えをして行ったことも、良い結果をもたらしたであろう。マナー違反等のご指摘は特に見当たらなかった。8名と少数ではあったが、留学生が初めての日本家庭を体験すると同時に、久しぶりの「家族の雰囲気」を満喫できた事は、彼らの今後の留学生活に大きな力となるはずである。また、ご尽力下さったホストファミリーの皆様にも、有意義なプログラムであってくれたらという思いを、感謝の気持ちと共にいつも感じている。今後に向けて、留学生と屋久島の方々の双方にとってベストな内容を考えていく事が我々の仕事であり、継続して話し合いを重ねる事が重要であろう。いずれにしても、国際交流、地域活性、環境学習等々、多くを学ぶことができるプログラムだったと確信している

(文責：市島)

3 まとめ

3回目となる「屋久島異文化交流セミナー」、そして2回目の「屋久島ホームステイプログラム」、いずれも充実した事業であったといえよう。期間、内容はそれぞれ異なるが、いずれの事業も、留学生と屋久島の住民がどのようにして相互理解を深められるかという先駆的試みであった。言語の壁、国籍の壁、世代の壁を双方がどのようにして克服していったか、そのプロセスが極めて重要なものとなる。今回は、一日目の夜の「異文化交流セミナー」で、地元の中高校生のほか、屋久島環境文化財団のボランティアの方々やホームステイの受け入れ家庭の方々とも相互交流を深めることができたため、その達成感は昨年以上のものがあった。本事業を来年以降どのように発展させ、継続していくかは、今回収積したデータ、アンケート回答資料等を合わせて、今後の判断材料とする考えである。

本事業の実施にあたり、御協力、御支援いただいた屋久島環境文化財団の皆様、鹿児島大学学長及び事務局、ホームステイ受け入れ家庭や中高等学校等の方々、平内集落の皆様全てにこの場を借りて心より御礼申し上げる次第です。

(文責：大嶋)

大嶋 眞紀 (留学生センター長・教授)

市島 佑起子 (留学生センター講師)